

「エリアコーディネーターとの協働を  
意識した自らの実践活動」

## 本校の教育相談(訪問)の実際

- 本校は、地域の学校の特別支援教育のセンター的機能も果たしている。今回は、地域支援に焦点をあて課題に取り組んだ。

(成果と課題)

- 私は、コーディネーター業務は、まだできないため、コーディネーターの先生の教育相談に同行し、地域の学校園への教育相談の実際を見学させていただいた。

(実践)町にあるこども園への教育相談(訪問)

(成果)実際にこども園に行き、園児たちの様子を見てその園児の実態を観察し、課題解決の方法を保育士さんたちとじっくり考えることができた。コーディネーターの先生の動きや指導方法を直接見る事ができた。

- (課題)①コーディネーターの業務の実際を知らない。  
②地域の学校園の実態を知らない。  
③自身の経験不足。

(実践から学んだこと)

(体験から)

海辺の学校から山間の学校まで実に広範囲に点在している。訪問による教育相談に向かうためにもかなりの時間が必要である。現在2名の専任コーディネーターが、地域の教育相談を行っている。慢性的な人手不足。

(研修から見えてきたもの)

地域の学校園の園児、児童、生徒たち、また職員も特別支援学校が行うセンター的機能を強く求めていることが分かった。

相談件数は、減少傾向にあるが、一つ一つの相談内容が複雑で困難な課題が増えてきている。

複雑な課題のため、これまで以上に、地域、学校、行政、医療・福祉関係、警察関係など様々な機関とつながり、連携を密にしないと解決できない課題がでてきている。

(実践活動の今後に向けて)

- ①コーディネーターとしての知識、技術の向上  
(体験して身に付ける他はないと思う。)
- ②地域を知る。(地域性、地域の風土文化も含め)
- ③エリアコーディネーターとつながりを強化。
- ④「助ける！」「助けて！」と言い合えるコネクション作り。(例)餅は餅屋

## 地域支援づくりへの提案

- ①蜘蛛の巣状のネットワーク形成。連携しているといいながら、実際には組織間の分厚い壁がある。
- ②様々な法整備。こどもの命と学びを守る法律の整備。実際には、権利や人権等の問題から難しいが。教育の業界や教師にももう少し権限が与えられてもよいと思う。
- ③コネクション作り  
「ここに相談すれば、〇〇につながる？」